

第1回審議会のふりかえり

1. スポーツ施設等の課題

スポーツ施策の現状をうけて

本市では、すべての市民がライフスタイルに応じたスポーツ習慣を身に付け、継続的にスポーツに親しむことで、心身の健康と体力の維持増進、健康寿命の延伸、スポーツを通じた人との交流による、明るく豊かな生活と地域社会の実現を目指しています。

スポーツ施策の推進は、「誰でも気軽に」取り組める生涯スポーツと、「競技力向上」を目的とした競技スポーツの両輪を推し進めていく必要があります、それぞれで施設に求められるものも異なります。

持続可能な地域スポーツ環境の確保・充実を図るためには、公共スポーツ施設だけではなく、様々なスポーツ資源を活用することも考え併せながら、生涯スポーツ社会の実現に向け、市民のスポーツの場を確保していく必要があります。

スポーツ施設の適正化に向けた課題

- ◆ 少子高齢化や、競技形態の変化など、スポーツ施設に求められる要望も多種多様になっています。
- ◆ 公共スポーツ施設の多くは老朽化しており、安全性を確保するため、中長期的な視点に立った施設整備が求められています。
- ◆ 限られた財源の中で多様なニーズに対応するため、施設整備の方針や計画の策定、民間資金の活用検討等を計画的に進めることが必要です。
- ◆ 社会状況や市民ニーズの変化、公共スポーツ施設以外のスポーツ資源の活用可能性等を考慮する必要があります。

『量』的課題

- 多様化するスポーツニーズや、気軽に誰もが利用できる施設の充実等が必要。
- スポーツが気軽にできる場としての公園、広場、緑道、学校等のオープンスペース等、施設以外にもスポーツができる場の創出。

『質』的課題

- 公共スポーツ施設は築後30年から40年経過している施設が大半であり、中でも伊丹スポーツセンターは50年を経過するなど、老朽化の影響が顕在化している。
- 限られた財源の中で多様なニーズに対応するため、施設整備の方針や計画の策定、民間の資金やノウハウを活用したスポーツ施設の魅力や向上や収益性確保。

第1回審議会における課題等に対する意見

（施設の有効活用・民間連携関係）

- ◆ 他市の放課後の学校活用は公民館のような利用になっているところがある。教室やプールなど、もっと有効活用を考えれば良いと思う。
- ◆ 民間活用については、PFIなど規模の大きな話だけでなく、指定管理者制度や民間施設のグランド活用等も含むことから、活用できるものは積極的に活用してはどうか。
- ◆ 他で開催してもらえる大会に参加するが、大会が進むと半分のコートにするなど体育館を仕切ったりして運営するなどしている。
- ◆ 地域の空きスペースで、アーバンスポーツを子どもたちはやっている。本格的な施設でなくても、池田市では高架下で作っており、ちょっとしたスペースを有効活用したら良い。
- ◆ 西宮市や尼崎市ではスポーツセンターにバスケットゴールを置いている。空きスペースでスケートボード施設を作ったり、暗いガラス前をダンス練習場としたり、活用できるものは活用すればよい。伊丹市でも三権軒寺前で3on3をするイベントの支援をしており、伊丹市でもやろうと思えば場所はある。
- ◆ 最近、東大阪市で車いすラグビーでもバスケットでも実施したが、コンクリート地ベースで対応している。そんなスペースがあればよい。
- ◆ 民間施設を活用する際も、市として予算を投入しているということを市民にアピールする必要があると思う。

（ニーズに対応するための施設整備関係）

- ◆ スポーツ施設をテーマパーク化するなど、スポーツを活かしたまちづくりはいいと思うが、今回そこまで検討するのは難しい。
- ◆ 長期的には、商業施設にスポーツ施設を整備するような検討も必要かもしれないが、そのような検討はしかるべき部署で検討すべき。
- ◆ 韓国などでは施設は立派ではないが、大会開催についてスポーツ施設ではないところにコートを作って開催しており、シャワーや事務室のあるコートを作っていたり、市役所の屋上にコートを作ったりする例もあることから、汎用性の高い施設や、設置経費のためのクラウドファンディングなども検討が必要。
- ◆ 子どもたちのアンケート、クライミング、スケボーなどが人気で、隙間の空間を使えるものが多いが、クライミングは一番メンテナンス費用が必要。
- ◆ 目的が特化した施設は維持などが難しい部分もある。
- ◆ 3on3やスケボーはやってみたい子どもは多い。他市では、空き地に全てのアーバンスポーツができる複合化した施設を作っている。このような施設があれば子どもは喜ぶと思う。
- ◆ ユニバーサルデザインについては、スポーツセンターでは国体の時にトイレが整備されたが数が少なく、大会時には不足する。

（長寿命化を見据えた安全な施設整備関係）

- ◆ 大きな大会では緑ヶ丘体育館、スポーツセンター体育館を使うが、他市と比較すると規定上狭い。大きな大会をできるようもっと広くして欲しい。既存施設は改修か、建て直す必要があると思うが、財源が限られていることもあり、幅広くやるのか、メインとなるもの、市の顔となるものに集中投資するのかを検討すべき。
- ◆ スポーツセンターの体育館や陸上競技場は改良する必要がある。
- ◆ スポーツセンターのタータンの陸上競技場については、400mフルにしなくても河川敷とか、80mで5レーンとかできる範囲で作れば良い。
- ◆ 伊丹スポーツセンターに投資が必要である。
- ◆ スポーツセンターのプールは、子どもと大人、コロナ禍前より利用者が減している。夏だけの屋外プールは運営が難しい。街中だけでなく学校ですらプールをなくす時代でどのようにしていくのか検討が必要。

（計画的な整備のための財源確保関係）

- ◆ 民間資金の活用の場合には、他市事例や、利益をあげる必要があることから、条件が合致するかどうかなど十分な検討が必要。
- ◆ 施設の広告収入が得られるのではないかな。
- ◆ 財源に課題があり、核になる施設への投資が大事。
- ◆ 学校に室内プールを作って授業以外に一般に貸すなどの例がある。

2. スポーツ施設等の課題解消に向けたまとめ

第1回審議会をおえて

少子高齢化や、競技形態の変化など、スポーツ施設に求められる要望も多種多様になっていることから、そのニーズに対応するための手法も様々です。こうしたことから、これまでの施設整備の課題や、審議会での意見を踏まえながら、「量」や「質」のそれぞれが確保されるよう、「施設の有効活用等」や施設の安全確保に向けた「施設の整備方針」を検討し、スポーツ施設の適正化を目指す必要があります。

視点1 公共施設等の有効活用や民間施設との連携

- ① 地域で身近にスポーツができる学校体育施設の活用が検討できないか。また、グラウンドや体育館については、多くの方が利用できるような柔軟な活用ができないか。
- ② 民間スポーツ施設との役割分担や連携の可能性、市費の投入状況を踏まえ、公共的な活用を検討ができないか。
- ③ 公共施設のフリースペース等の空きスペースをスポーツに活用できないか。

など

視点2 将来世代等の市民ニーズを踏まえた施設整備等

- ① 目的を特化した施設は維持などが難しい部分もあることから、多様な市民ニーズに応じるためには複合的機能を有する施設整備を検討できないか。
- ② 3on3やスケボーなど新たに普及してきたスポーツは子どもや若者のニーズが高いことを踏まえた施設整備を検討できないか。
- ③ 大会時にスポーツ施設ではないところにコートを作って開催するなどして対応する例等もあることから、汎用性の高い施設の設置を検討できないか。
- ④ 整備時にはユニバーサルデザインを検討できないか。

など

視点3 長寿命化等を見据えた安全な施設整備

- ① 公共スポーツ施設の多くが老朽化しており、安全性を確保するため、中長期的な視点に立った施設整備が検討できないか。
- ② 利用者の安全確保を前提に施設ごとの長寿命化、更新等を検討できないか。
- ③ 既存施設は改修か建て直す必要があるが、財源が限られているため、幅広くやるのか、メインとなるものに集中投資するのか等、予防保全や事後保全等を踏まえ、計画的な施設整備を検討できないか。

など

視点4 計画的な整備のための財源確保

- ① 民間資金の活用の場合には、条件が合致するかどうかなど十分な検討が必要ではないか。
- ② 投資する施設では、広告収入等新たな財源の確保ができないか。
- ③ 集中投資をする一方、ニーズが変化・縮小したものについては、効率的な施設配置となるよう機能移転や統合等を検討すべきではないか。

など

これまでのスポーツ施設に係る課題及び審議会での意見を踏まえ、課題解消には4つの大きな視点を踏まえた「施設の有効活用等」や「施設の整備方針」を検討し、施設の適正化を図る必要がある。